

令和 6 年 6 月 23 日現在

機関番号：32687

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20H01190

研究課題名（和文）ハワイ日系仏教寺院所蔵の新出資料・文化財による領域横断的な仏教史研究

研究課題名（英文）Interdisciplinary Research on Buddhist History with Newly Discovered Materials and Cultural Properties Held by Japanese Buddhist Temples in Hawaii

研究代表者

安中 尚史（Annaka, Naofumi）

立正大学・仏教学部・教授

研究者番号：40277744

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 10,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、ハワイ日系仏教寺院が所蔵する資料の調査に基づく内容であったことから、コロナ禍の影響で2020年度・2021年度は調査ができず、計画通りに推し進めることが難しかった。こうした中で、研究メンバーが過去に実施した調査で収集した資料を基にデータベースを構築したり、オンラインによる研究会を実施するなど、活動が制限がされる中で研究を進展させた。その後、2022年度は2度に亘ってハワイ・オアフ島の調査が適い、各寺院が所蔵する仏像、開教師による日誌、写真資料など約450点を調査し、さらに約1000点以上に及ぶ、仏具・位牌、法話やラジオ番組の録音テープ、信徒の日記・証書などの所在を確認した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義については、過去に実施した調査で得られた情報をデータベース化して本研究の基礎に位置づけ、そこに2022年度実施の調査で得られた、新出の文献資料（一次資料）と文化財（モノ資料）の情報を連関させ、とくに宗教社会学・仏教史・移民史をこれまでに無い見知から捉える横断的な研究を検証していることである。また、社会的意義としては、ハワイで活動する日系仏教寺院関係者に対し、自身の所有・管理する資料の様々な価値を、正確に認識する機会を提供することができたことに加え、その資料の如何にして将来に継承する必要があるのかを示すことが適ったことである。

研究成果の概要（英文）：This study was based on an investigation of artifacts and materials held by Japanese Buddhist temples in Hawaii. Due to the impact of the COVID-19 pandemic, it was not possible to conduct field research in 2020 and 2021, making it difficult to proceed as planned. Despite these difficulties, the research team advanced their work by building a database with artifacts and materials collected in past surveys and holding online workshops. In 2022, two field research events were conducted on Oahu, Hawaii. The research team examined approximately 450 items shared from participating temples that included Buddhist statues, diaries by resident priests, and photographic materials. Additionally, the research team confirmed that over 1,000 items existed, such as ritual implements, memorial tablets, recorded sermons and radio programs, and diaries and certificates of temple members.

研究分野：日本仏教史

キーワード：ハワイ開教 日本人移民 文化財 日本仏教

## 1. 研究開始当初の背景

近代における日本仏教各宗派の海外布教活動は、ハワイ・北米・南米・朝鮮・台湾・中国・満州・樺太・南洋などの国・地域において、日本人の移民を主な対象に展開した。近年、主にアジア太平洋地域における日本仏教に関する研究が盛んとなり、研究代表者も参加した共同研究では、帝国主義やナショナリズムの問題などが多面的に論じられている(大澤広嗣編『仏教をめぐる日本と東南アジア地域』(2016年)、柴田幹夫編『台湾の日本仏教』(2018年)など)。

1945年の太平洋戦争終焉を期に、アジアに展開した布教活動はほぼ断絶したが、1880年代以降に日系人移民が数多く生活していたハワイやアメリカ西海岸では、戦時中の強制収容という危機的状況があったものの、現地信徒の支援によって戦後も寺院が存続している。

本研究と関係する先行研究は宗教社会学的な立場での研究や、仏教宗派ごとの内容、移民史的な立場での考察が主である。

1) 宗教社会学的研究 柳川啓一・森岡清美編『ハワイ日系人社会と宗教 ハワイ日系人宗教調査』(1972年)、高橋典史『移民、宗教、故国 近現代ハワイにおける日系宗教の経験』(2014年)があり、前者は網羅的だが文化財(モノ資料)や本研究の事前調査で明らかになった資料は扱っておらず、後者は天理教との比較で仏教を論じるが、仏教の独自性とハワイ寺院の歴史的背景の考察が弱い。

2) 仏教史学的研究 安中尚史「ハワイにおける日蓮宗の開教活動について」(2004年)、守屋友江「日本仏教のハワイ布教と文化変容 ハワイ本派本願寺教団を中心に」(2013年)、魚尾和瑛「ハワイにおける日系仏教教団の現地法人設立と組織の変容 財団法人布哇浄土宗教団の設立を事例に」(2018年)など、宗派ごとに現地刊行物などの限られた文献資料を基にインタビューを交えて行う研究が中心で、宗派を横断したものは少ない。

3) 移民史学的研究 守屋友江「太平洋の交差点」の日本仏教 グローバル化とローカル化の交錯」(2019年)は、ハワイ日系移民の動向が記されている記録・刊行物などの資料から仏教(浄土真宗本願寺派を中心)を論じている。また、森本豊富「日本における移民研究の動向と展望 『移住研究』と『移民研究年報』の分析を中心に」(2008年)にもみられるように、総じて日系移民史は宗教を扱った研究が極めて少なく、日系人移民の大半を占める仏教徒が多くの寺院を建立し様々な宗教行事を行ってきたことにまで言及していない。

## 2. 研究の目的

本研究は、ハワイに所在する日本仏教各宗派の寺院を中心に、公的機関、信徒宅に遺されていた新出の文献資料(一次資料)および文化財(モノ資料)について、新たな資料体系として構築し、ハワイ日系移民社会の中で展開した日本仏教の動向を実証し評価する。

研究代表者は、日本人の本格的な移民が始まった1880年代から太平洋戦争が終焉した1945年までを研究対象期間とし、ハワイの仏教寺院調査を継続的に行っている。これまでの調査で、多くの未整理資料が寺院で保管されていることや、また文化財については先行研究において調査の範疇に含まれず研究の対象として考察した前例がないことが判明した。研究代表者は、こうした資料や文化財の中から、太平洋戦争中の日系人強制収容所における仏教行事の開催や、戦時下において寺院がすでに再開されていたことを示す資料を新たに発見した。この発見は、先行する宗教社会学・仏教史・移民史などの研究と関連し、確証の得られなかった事実を裏付け、戦時下における日系人移民社会の動向に新たな見地を加えた。

本研究では、特に新出の文献資料(一次資料)と文化財(モノ資料)に着目し、先行研究が解

明した事実と新たに体系化した資料を連関させ、ハワイで展開した日本仏教の考察と実証を行うことで、宗教社会学・仏教史・移民史をこれまでにない見地から捉えることを目的とする。

### 3．研究の方法

本研究で研究代表者・分担者・協力者は、オアフ島の日系仏教寺院8ヶ所（曹洞宗4寺、浄土真宗2寺、日蓮宗1寺、浄土宗1寺）を調査した。特にハワイ曹洞宗正法寺では、本堂安置の仏像群（釈迦如来・三十三観音）からオアフ島耕地の日本人労働移民が1920年に仏像を発願造立したことを確認（各像に造立費寄進者の出身地・現住所・氏名を記す）、その他約200点の写真や資料（ハワイおよびアメリカ本土で撮影された写真、戦前から戦後にかけて日系人の動向を示す書類等）を調査した。本派本願寺ハワイ別院では、開教師が記した日誌や教団議事録等を11点調査、また寺院主催のラジオ番組（「本願寺アワー」1983～1998年）の放送記録の資料（約800件分）を確認した。

### 4．研究成果

現在のオアフ島には各宗派の拠点寺院が設置され、文献資料と文化財の所蔵量が一般寺院と比較して多いことは、宗派を横断した調査の結果から明確になった。加えて、それらの資料は本研究において想定していた質と量を大きく上回り、各寺院に関連する内容のみならず、ハワイ全体の日系寺院の歴史や、アメリカ本土への海外布教展開を解明する資料群であるといえる。

ハワイへ移民した日本人の活動域に鑑みた場合、入国の窓口であったオアフ島だけではなく労働と居住の主地域であったハワイ島等、他の諸島の日系寺院も重要である。オアフ島での成果を含む資料の体系化は、本研究を発展させる形で宗派の枠を超えた仏教史研究を実現できると考える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計17件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 7件）

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>石井清純                              | 4. 巻<br>60-17       |
| 2. 論文標題<br>世界中を魅了する「禅」マップ                   | 5. 発行年<br>2022年     |
| 3. 雑誌名<br>プレジデント                            | 6. 最初と最後の頁<br>44-47 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.11501/2802352 | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難      | 国際共著<br>-           |

|  |                 |
|--|-----------------|
| 1. 著者名<br>安中尚史                         | 4. 巻<br>50      |
| 2. 論文標題<br>史料紹介：ハワイ日蓮宗別院所蔵「ハワイ開教師日誌」   | 5. 発行年<br>2023年 |
| 3. 雑誌名<br>日蓮教学研究所紀要                    | 6. 最初と最後の頁<br>- |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし          | 査読の有無<br>無      |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-       |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>守屋友江                               | 4. 巻<br>8             |
| 2. 論文標題<br>アメリカ禅の成立                          | 5. 発行年<br>2022年       |
| 3. 雑誌名<br>国際禅研究                              | 6. 最初と最後の頁<br>229-240 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>10.34428/00013056 | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である）        | 国際共著<br>-             |

〔学会発表〕 計13件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 11件）

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>守屋友江                                    |
| 2. 発表標題<br>移民の定住とハワイ開教 ハワイ本派本願寺所蔵資料より              |
| 3. 学会等名<br>第2回ハワイ仏教文化財研究会「ハワイ仏教文化財・調査報告2022」（国際学会） |
| 4. 発表年<br>2022年                                    |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>守屋友江                           |
| 2. 発表標題<br>ハワイ本派本願寺教団創設期の開教と移民 新発見史料の中間報告 |
| 3. 学会等名<br>仏教史学会3月例会ワークショップ（国際学会）         |
| 4. 発表年<br>2023年                           |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>石井清純                                    |
| 2. 発表標題<br>ハワイ正法寺三十三観音と駒形コレクションの史的価値               |
| 3. 学会等名<br>第2回ハワイ仏教文化財研究会「ハワイ仏教文化財・調査報告2022」（国際学会） |
| 4. 発表年<br>2022年                                    |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>石井清純                           |
| 2. 発表標題<br>ハワイ正法寺所蔵資料について 仏教文化財調査の途中経過として |
| 3. 学会等名<br>仏教史学会3月例会ワークショップ（国際学会）         |
| 4. 発表年<br>2023年                           |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>守屋友江   |
| 2. 発表標題<br>日系移民と仏教のグローバル化   |
| 3. 学会等名<br>大阪大学グローバル日本学教育研究拠点、「国際日本研究」コンソーシアム主催オンライン・ワークショップ「マイグレーション研究とデジタル・アーカイヴ」（国際学会） |
| 4. 発表年<br>2021年   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>守屋友江                                       |
| 2. 発表標題<br>日系アメリカ仏教史から読み解くハワイ仏教文化財                    |
| 3. 学会等名<br>第 1 回ハワイ仏教文化財研究会「ハワイ 仏教文化財の現状・保存・継承」(国際学会) |
| 4. 発表年<br>2021年                                       |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>笹岡直美                                       |
| 2. 発表標題<br>ハワイ仏教文化財調査報告 - 保存の現状と継承の問題 -               |
| 3. 学会等名<br>第 1 回ハワイ仏教文化財研究会「ハワイ 仏教文化財の現状・保存・継承」(国際学会) |
| 4. 発表年<br>2021年                                       |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>安中尚史                                       |
| 2. 発表標題<br>文化財から見るハワイ日蓮宗の展開                           |
| 3. 学会等名<br>第 1 回ハワイ仏教文化財研究会「ハワイ 仏教文化財の現状・保存・継承」(国際学会) |
| 4. 発表年<br>2021年                                       |

〔図書〕 計5件

〔産業財産権〕

〔その他〕

ハワイ仏教文化財研究  
<https://www.hawaiibuddhism.jp/>

## 6. 研究組織

|       | 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号)                         | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号)                             | 備考 |
|-------|---|---|----|
| 研究分担者 | 守屋 友江<br><br>(Moriya Tomoe)<br><br>(30340847)     | 南山大学・南山宗教文化研究所・教授<br><br><br><br>(33917)          |    |
| 研究分担者 | 笹岡 直美<br><br>(Sasaoka Naomi)<br><br>(90586984)    | 東北芸術工科大学・文化財保存修復研究センター・准教授<br><br><br><br>(31501) |    |
| 研究分担者 | 中原 ゆかり<br><br>(Nakahara Yukari)<br><br>(00284381) | 愛媛大学・法文学部・教授<br><br><br><br>(16301)               |    |
| 研究分担者 | 石井 清純<br><br>(Ishii Kiyozumi)<br><br>(30212814)   | 駒澤大学・仏教学部・教授<br><br><br><br>(32617)               |    |

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

|   |                    |
|---|--------------------|
| 国際研究集会<br>第2回ハワイ仏教文化財研究会「ハワイ仏教文化財・調査報告2022」 | 開催年<br>2022年～2022年 |
| 国際研究集会<br>第1回ハワイ仏教文化財研究会「ハワイ仏教文化財の現状・保存・継承」 | 開催年<br>2021年～2021年 |

## 8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|         |         |